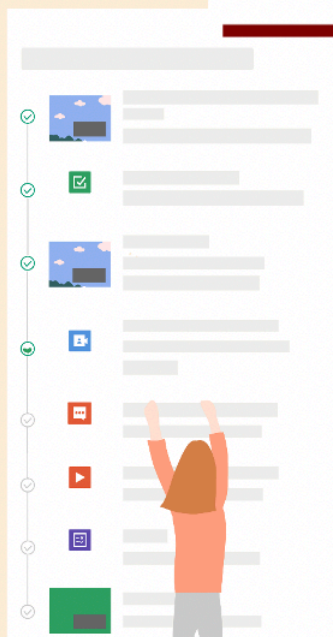
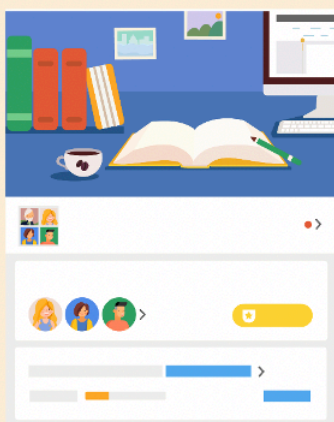




つながる学ぶ！3分で分かる 新機能「ラーニングサークル」



この資料で学べること…

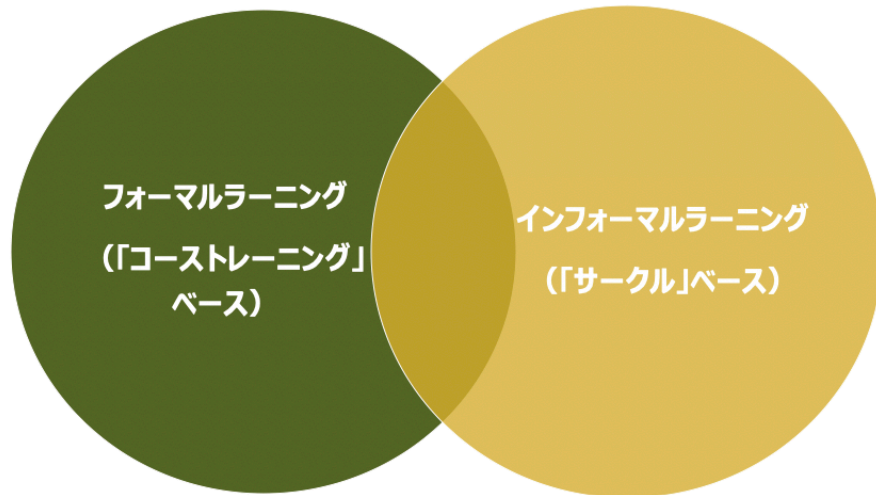
- ◆01 UMUの最新機能「ラーニングサークル」って何？
- ◆02 「ラーニングサークル」と従来の「研修型学習」の違い
- ◆03 「ラーニングサークル」の効果的な活用に向けた4つのポイント



つながる学ぶ！3分で分かる、新機能「ラーニングサークル」

企業の企画部門が中心となって提供する研修などの「フォーマルラーニング」に対して、現場の専門家が自身の考えをシェアしたり、従業員同士が学び合う学習を「インフォーマルラーニング」と呼びます。

これまで UMU は、従来のトレーニングベースの学びだけでなく、日常の学びの共有を可能にする「ラーニングサークル」を近日リリースすることになりました



ラーニングサークルは、サークルの主催者の設定に基づいて、参加者が誰でも自由にトピックを発信することができる学びの場所です。

SNS のように人と人をつなげ、情報や学習についてシェア・コメントができ、サークルメンバー同士の知識を高め合うことができるグループを手軽に作成することができます。

ラーニングサークルには、個人のタイムラインがあり、自分がフォローした人のラーニングサークルが更新されると、そのポストが表示されます。最高 10 個のタグが付けられるので、興味や関心が合ったメンバー達がサークルメンバーとして自主的に集まることができるのです。

テクノロジーを用いて学びたい人のネットワークを構築する、これこそがラーニングサークルの目的です。

ラーニングサークルで従来のコンテンツがより一層魅力的に！

例えば、私たち UMU の学習プラットフォームをすでに社内システムに活用されている企業様のケースをみてみましょう。

この企業では、すでに現在数 100 コース、1,000 以上のコンテンツを作成して、各階層での研修に加えて、職別のトレーニングコンテンツの提供など学びの機会をコースという形で提供されています。現在は、

- 1 製品や業務などに関する「学習チャンネル」
- 2 担当同士が互いに学んだり気づきを共有する「営業担当チャンネル」
- 3 営業所長が業務に関連したり、役立つと思った学習コンテンツを流す「所長チャンネル」

主にこの 3 つのチャンネルを通じて学習を展開されていますが、ラーニングサークルを活用して一気にコンテンツ数の拡充と学習者主体の学びへの転換を検討されています。ラーニングサークルを導入することで、今まで「学ばされている、学ばなくてはならない」だった社内学習が、まるで自分の趣味に合ったサークルを選んで参加するように「自分に合った仲間と共に学ぶ」に変わっていくのです。

「ラーニングサークル」は今までの研修型学習と何が違うのか？

ラーニングサークルについての理解を深めていただくために、従来の研修型の学習方法とラーニングサークルの機能を比較してみましょう。

	研修型学習 (フォーマルラーニング)	ラーニングサークル (インフォーマルラーニング)
学び方	意図的に作成された体系的なコンテンツを集中して学ぶ	小規模グループで、常に学びながら、アウトプット(投稿・コメント)ができる
学びの形	コース単位	投稿単位、カード単位
手軽さ	作成者も学習者も、心構えが必要	気軽にいつでも参加できる
シェアの方向	講師(個人)→学習者(多数)	誰でも(多数の個人)→参加者(多数)
学習の流れ	決められた手順で体系的に、学習を進めていく	学習者が主体。パフォーマンスやキャリアにプラスになるものを自分で選択して、学習者自らが学びのパスをデザインできる
継続性	研修が終われば、コースとの接点は終了する	新しい情報や経験を共有したり、新しい研究結果などを発表できるので、継続的な接点を持ち続ける
形態	コース・クラス単位ベース	サークルベース
コンテンツ	ゴールから逆算しての設計のため有限	常に学び続けアップデートし続けるので無限
準備	コースをまるごと準備するので大変	思いついた時に投稿できるので気軽
学習への姿勢	必要性があり受講するため、受動的	自分で主体的に選択するため、能動的

「フォーマルラーニング」が、あくまでもコースベース(目的+ゴール)で一つ一つ完了して終わらせていくものなのに対し、「インフォーマルラーニング」は毎日の学習が重要になるということがポイントです。

「ラーニングサークル」の効果的な活用に向けた4つのポイント

ラーニングサークルを活用して毎日の学習をより簡単に共有できるものにし、組織としての「ラーニングカルチャー(学ぶ文化)」を構築していくためのヒントと効果的なステップをご紹介します。

1 ホットピックスからまず始める

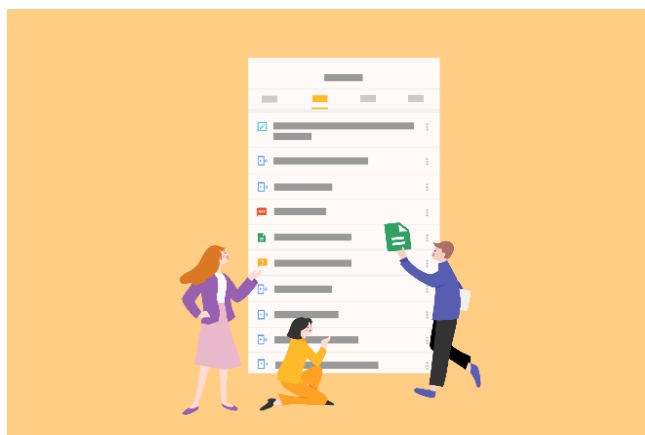
今一番あなたの組織や会社でホットなトピックスを、ラーニングサークルのメインテーマにしてみましょう。具体的には、会社の重点施策や方針、新製品やサービス、社内でのイベントなどから開始してみるのがおすすめです。

2 会社内部や外部のフィードを収集し、まとめる

社内だけでなく、社外の専門家やグローバルトップ企業などの幅広い情報をキュレーションして、配信するのも有効な方法です。

3 シェアと関わりを促進するコンテンツを作る

ラーニングサークル参加者がトピックスに関する情報をシェアをしたり、積極的に関わっていったりしやすいコンテンツを設計することで、参加者の仲間意識を高めていくとサークル内に良い雰囲気生まれます。



4 AI ベースのリコメンド機能/インフルエンサーのフォロー機能などを活用する

例えば、自分がフォローしているラーニングサークルが 100 個あり、それぞれ毎日更新された場合、毎朝 100 個のポストを確認するのは大変です。そこで AI 機能を活用して、閲覧頻度が高い投稿や自分にとって関連性の高い投稿を優先的に表示させる、また、自分が社内で目標にしたいメンバーをフォローして、その方のおすすめにアクセスできるなど機能開発に現在取り組んでいます。これがあることにより毎日自分に必要な学習にアクセスすることが可能となります。

*こちらは現在 2020 年 8 月時点での搭載予定の機能となります。

ラーニングサークルは、従来の社内学習内容をもとに、学習環境を整えるだけで、参加者同士が投稿やシェアを行い、共に実際の現場に伴ったコンテンツを作成していくことのできるツールです。

教育学をベースに最新のテクノロジーを取り入れた「ラーニングサークル」。

さらに詳しい機能などを知りたい方は、導入をご検討されている方は、どうぞお気軽に cs@umu.co までお問い合わせください。

© UMU Technology Japan. All Rights Reserved.